

後付け可能な車線逸脱・衝突防止装置を開発

来年早々にも商品化

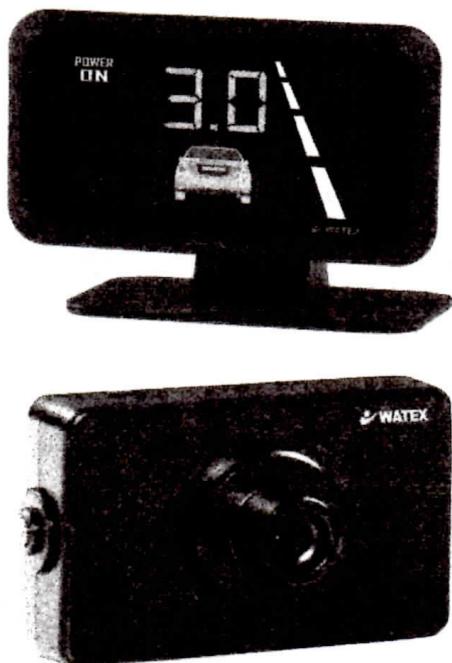
超低価格実現し普及へ

オリジナル電子機器のワーテックス

ドライブレコーダーや防水液晶テレビなど、オリジナル電子機器の開発、製造、販売を手掛けるワーテックス（太田市東新町32、安俊典社長 ☎0276-25-3788）はこのほど、後付け可能な車線逸脱・衝突防止装置「XLAS-101」を開発した。自動車メーカーはプレキシシステムと連動した衝突防止装置を実用化しているものの採用車種は限定的。対して新開発システムは大半の車両にも取り付けられる上、希望小売価格7万9800円と低価格化を実現しているのが特徴となる。メンテナンスゲットは運送業者などの中・大型車両となるが、乗用車にも搭載可能。早ければ来月にも発売できる見通しで、積極的にPRする。（塚越吉洋）

98年に設立の同社は当初、バックモニターカメラを稼働するなど、事業展開を主力にしていたが、近年は運送業者向けのドライブレコーダーをはじめ、拡充。来年5月には太田

業柱として商品化したのが、



社内に取り付けるLCDユニットとカメラ

「高機能・低価格品が作れば、需要を取り込めるはず」（同社）と判断。培ってきた技術を生かし、完成させたのが今回の商品となる。

使用方は車内のバックミラー中央付近に単眼カメラを設置。カメラは走行中、車線と前方自動車との距離を常に認識しており、車線や前方の自動車に近付くと音声もしくは警告音で、危険を知らせるほか、車内に取り付

けたLCDユニットには、何秒で前方の自動車に衝突するかなどを表示する。車線までの距離感覚は、2段階で設定可能となっており、警告音も複数のパターンから選択可能。なお、ウインカーを出して車線変更する際は警報音が鳴らない仕組みとなっている。



カメラは走行中、車線と前方自動車との距離を認識している

希望小売価格7万9800円は現在、市場で注目を集めている商品のおよそ半値で、競争力は十分。一方、どの車種でも

1ユニットで対応するため、カメラの取り付け位置については微調整が不可欠で、専門の取り付け業者が必要となる。現在、取り付け業者認証制度の立ち上げ準備を進めており、地域の電装業者などの加盟を見込むほか、販売代理店についても順次

募集していく方針。同社では「これまでは運送業者など向けの車載製品を展開してきたが、今回の商品は乗用車にも有効なので、新たな市場参入の足掛かりになる。積極的にPRしていきたい」と普及に意欲を見せている。